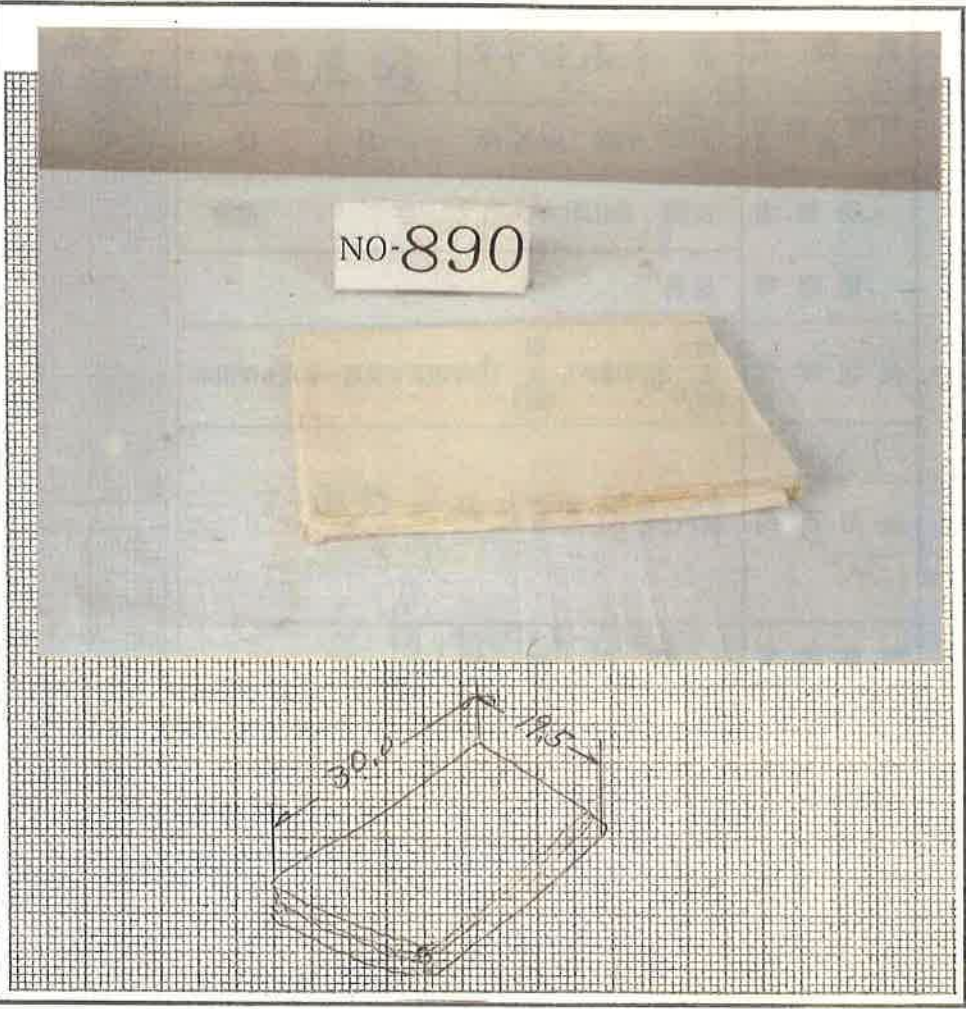


# 民俗資料調査カード

通番号 890 分類番号 280-10

資料名	地方名(カタカナで記入してください) 津がし 標準名 上和紙
寄贈・借用年 月 日	昭和・平成 28 年 月 日
寄贈者	住所 金山町大字玉梨 字 番地
所有者	氏名
使用年代	明大初年頃から明大咽中頃まで使用・現在も使用中
使用目的	障子紙(きり) (帳簿用)
収蔵場所	津平民具館
備考	
調査年月日	平成 25 年 10 月 25 日
調査員	玉梨民具保存会



# その他

製 作 地		<p>(使用方法の写真、または使用方法の説明)</p> <div data-bbox="1301 467 1861 868" data-label="Text"> <p><b>和紙作りの順序</b></p> <p>一 晩秋に楮の木(和紙の原料)切り          一 楮を三尺位に切り小束にたねわかれ          大たねにして大きな楮で蒸す          一 熱いうちに大勢の人達で皮を剥ぐ          小束のたねわかれなどにかき分け乾          燥させる          一 水に二晩位浸してから、うすい外皮と          とる(これとスベとりと言ふ)          一 それを一振りぬら末ね乾燥さす          一 これを水に浸し良く洗ひ汚れをとる          一 次に釜に木灰汁を入れて二府位煮る          一 それをザルに入れて水溜の中に分りや          灰と流し水を一回り頭位の大きさに          するもの</p> </div> <div data-bbox="1301 938 1861 1342" data-label="Text"> <p>一 次に厚い板の上下大勢でたたき、砕く          一 砕いた紙屑と灰炭に水溜の中を排          てついで紙屑と三まかくして灰とぬれ          一 それを紙すき舟に入れ水に長くかき流し          せよに二レのノリを入れてまたかき流せる          一 紙流しスに原料が平に付着するよう          してすき、一枚一枚積み重ねてゆく          一 その上に重石を上り水分と適當にとる          一 それを乾燥板に一回り天日で乾かし          て和紙が出来あがる</p> <p>イ、和紙流しは最末が過期          ロ、四十八枚と一帖の單位として売買          された          ハ、紙流しの手数は四十八子かると          言われた</p> </div>
製 作 者		
材 料		
製 作 時 期		
購 入 先 ( 購 入 地 )		
年 号 印 書 焼 墨 等		<p><b>和紙</b>、和紙は昔から障子          紙としてなくてはならぬ必需品          で当地方では昭和三十五年頃ま          で「コウソ」(和紙の原料)の栽培か          ら和紙作りまでやっていました</p>